

子育てを
応援します

青森市子育て

vol.16

2018.7.3 発行

サポセン

《サポートセンター通信》
通信

青森市子育てサポートセンターでは、家庭教育に関する学習機会の提供（青森市内の小中学校で行われている家庭教育学級の運営サポート、子育て講座《きらきら塾》や発達に心配のあるお子さんに関する講座《うとう塾》の企画運営）、情報収集、発信、また子育て相談の対応等を行っています。



知る事が次に踏み出すステップになる

第1回
5/16

うとう塾

発達障がいってなあに？

～子どもとの関わり方～



講師：鳴海 明敏さん
(おおぞら学園施設長)

第一回うとう塾ではおおぞら学園の施設長の鳴海さんをお迎えして、発達障がいの特性について学びました。

～発達障がいとは生まれつきの脳機能の発達のアンバランスや凸凹具合～

人は誰しも、得意なことや不得意なことがあるものです。その中でも発達障がいのある人は、得意なこと不得意なことの差が非常に大きかったり（これを凸凹という）、他の多くの人と比べて違った物事の感じ方や考え方をすることが多くあるそうです。そのため、

勉強の理解や進め方、注意の集中や持続の偏り、対人関係でのすれ違いなど、日常生活に支障をきたしやすいのです。その凸凹はなくなるものではなく、その人がずっと持って生きていくものだということも分かりました。しかし、環境や周囲との関わりを工夫・調整していくことで、困難は改善していくことができる！とお話して下さいました。

～感覚の特異性～（※1）

味覚、嗅覚、触覚、視覚、聴覚など、いわゆる五感といわれるものが、発達障がいの子は特に過敏だったり鈍感だったりします。本人にとってはそれが当たり前の感覚になっているので自分ではわからず、他人に指摘されてはじめてわかることもあります。子どもであれば特に、自分でもなかがイヤ・不快なのかわからない、まわりに伝えられないことが多く、身近な家族にもなかなか理解してもらえず、時には大人たちに問題行動としてとらえられてしまい苦しんでいることもあります。

参加者の感想

- * 感覚の特性について、子供と苦手探しをしようと思いました。
- * 『発達凸凹なボクの世界』うちの子ととても重なりました。子どもにも読ませてあげたい。
- * 子ども気持ちを理解する大切さが改めて分かりました！ また、起こりうる問題に対する対処法も聞く事ができ、大変勉強になりました。



うとう塾ってなあに？

発達に心配（発達の偏りや遅れ）のある4歳～小学校中学校までの保護者や関心のある方を対象に、専門知識を持つ講師をお迎えして、年5回開く子育て講座です。

講座では、絵本『発達凸凹なボクの世界』（※2）の紹介があり、主人公タク君は、発達の凸凹がある子でした。タク君は教室での話し声や、給食の匂いがとても気になってしまい、みんなと同じように過ごすことができません。でも、そのことをお母さんや先生にうまく伝えられず、怒られてしまいます。そんな中、感覚の過敏からくる『苦手』に気づいた学童の先生がお母さんに声をかけ、タク君の『苦手』をはじめ理解しました。お母さんは「大きな音」「服のチクチク」といったタク君の苦手をいっしょに探して、どうしたらいいか一緒に考えてくれました。という内容でした。参加者の中には、タク君の気持ちを思い涙している方もいらっしゃいました。

私たちの周りに、もし「困った子」がいるとしたら、実はそういった感覚過敏に悩む「困っている子」なのかもしれません。決してその子や親のせいではないことを理解してあげたいですね。そして、一緒に解決法を見つけたり、思いやりを持った対応ができればもっと毎日が楽しくなると思います。ぜひ、お子さんと一緒に読んでいただきたい一冊です（^o^）

～グループワーク～

講座の最後に、参加者同士で気になることや悩みを話し合いました。各グループごとに質問を発表し、鳴海さんからの確かなアドバイスをいただきました。詳細はサポセンのブログ（※3）に載っているので、ぜひそちらもチェックしてください^^



※1) 感覚過敏の例：「人に触られるのは、痛いしとても怖い」「嫌な音は、掃除機とミキサー、それとたくさんのしゃべり声」「雨は当たると痛い。一つの毛穴に針が何本も刺さるように痛い」など
 ※2) 絵本『発達凸凹なボクの世界』/ プルスアルハの紹介
 ※3) サポセンブログ⇒ <http://blog.goo.ne.jp/saposenrarara>

子育てにいくらかかるか…知ってる？



第1回
5/28

きらきら塾 成人するにはどれだけかかる？ ～子育てのお金の話～



講師：石山 千佳さん
(東北財務局 総務部 職員)

本年度のきらきら塾は「参加者が体験を通して子育てに関する知識や情報を学び、自分の子育てに活かせる場の提供をする。また、家庭教育を考える機会とする。」をテーマに7回の講座が企画されています。そして、第1回目、講師に東北財務局総務部 石山千佳さんをお迎えし「成人するにはどれだけかかる？～子育てのお金の話～」が開講されました。成人するまでのライフプランとして、お金に関することを学びました。ライフプランとは、人生設計(ライフデザイン)の実現のため、金銭面からの生活設計のことを言います。その大きな柱は3つ、「教育資金、住宅資金、老後資金」です。これらの資金に関する目安や、お金の準備、貯め方、運用額の決め方などについてお話を聞きました。「教育資金」に関しては参加者からの質問も多く、資料から、保護者による学習費(学校教育費+学校給食費+学校外活動費)の負担額、大学の学費、学生の生活費、仕送り額(国公立、私立で違いあり)などの概算金額や、教育ローン、奨学金を利用する場合の留意点の説明がありました。ライフプランを考え

る上で家計をチェックし、支出を見直してみることで、その際に4タイプ①金利がかかる支出(クレジットカードの分割払い・リボ払いなど)を避ける②固定的な支出(保険、スマホ料金など)③特別な支出(旅行、趣味など)④習慣になった支出(タバコ、酒など)について見直すこと効果的とのことでした。また、女性が働きやすい環境をつくるということで、配偶者特別控除や社会保険加入対象者の拡大などいろいろな制度が変わりつつあることを知りました。いずれにしても、長期的な視野で考え、備えていくことが大切だと思いました。

***** 参加者の感想 *****

- *これを機会に家計を見直してみようと思いました。
- *講師の先生のお子さんのお話を聞いて、自分の家族に置きかえて聞いていたので、とても楽しくわかりやすかったです。
- *教育資金を用意しながら、老後資金も考えていかなければと思った。




鳴海先生の子育てQ&A

児童心理療施設「青森おおぞら学園」
施設長 鳴海 明敏さん

鳴海さんは、子育て講座の講師など、私たちにもわかりやすく優しくお話をしてくださる、信頼できる方です。

A 私も小学校の頃までは、親が着て行けといったものを素直にそのまま着て歩いていたので、今日は何を着ればいいのかといちいち尋ねていました。その延長で中学になっても、親が買ってきてくれたものを着ていました。それが高校生くらいになったら、アイビー・ファッションだ、VAN だ、ジーンズだ、あつという間にファッションに目覚めたことを思い出しました。

さて、おさんは「なんで許可を求めたのでしょうか？」自分で判断して何かをして失敗したときに、叱られるのが嫌なのではないでしょうか。歩き始めの時は、転んでもよろけても皆であんなに喜び合ったのに、いつの間にかご家族の中で「失敗は許されないこと」になっていませんか？新しいことを学ぶ時は、最初は失敗し、その失敗を繰り返しながら少しずつ上手になっていきますよね。でも、頭では分かっているが、我が子のこととなると、とても失敗は認めることができないということかもしれませんね。

同じ失敗でも、子どもにまかせて失敗しても黙って見ていることができるようなものと、ケガの危険やそれ以外の理由から、失敗させてはいけないことや、まだまだまかせられないものがあるのではないのでしょうか。この境目が、パパとママの間や双方の祖父母との間でしっかり了解合っていると、ママはとても楽だし、そのことをお子さんに説明できていけば、子どもさんも安心して試行錯誤できるのではないのでしょうか。

子どもは、任されているからこそ慎重にもなるし真剣にもなります。成功したときの喜びも大きくなるでしょう。そして、失敗しても誰の責任にも出来ないからこそ、なんで失敗したのかを深く考え、再度失敗しないように工夫しようとするのだと思います。

もし、家族の中でパパやお兄ちゃんが、自分自身の身の回りのことを自分で判断して一人でやれているのであれば、「パパ(お兄ちゃん)を見習いなさい！」の一言で済むのですが、そこはどうなっているのでしょうか…

Q 小5の男の子です。
「今日は何の服を着ればいいのか？」
「今、宿題やった方がいいの？」と何をやるにも許可を求めてきます。親としてはそろそろ自分で判断して決めて欲しいです。
ただ、友達を家に呼ぶ時など、親に相談して欲しいこともあります。
どのように関わっていけば良いのでしょうか？



青森市子育てサポートセンター

【TEL・FAX】017-774-6537 (開設時以外は、留守番電話をお願いします。)
 【住所】〒030-0813 青森市松原1丁目6-3 サンピア(勤労青少年ホーム)2F
 【開設日時】毎週火曜日 10:00～13:00
 【E-mail】aomorishi-saposen@arion.ocn.ne.jp 【ブログ】http://blog.goo.ne.jp/saposenrarara



青森市子育てサポートセンターの運営は、私たち《青森市家庭教育サポーター連絡会》が、青森市教育委員会から家庭教育支援事業を受託して行っています。「青森市内で子育てをしている保護者のみなさんのお役に立ちたい！」という熱い思いで活動に取り組んでいます。